

周辺案内



康楽館

明治43年(1910)小坂鉱山関係者の福利厚生・娯楽施設として建設された芝居小屋は木造2階建。現存する中では、日本最古の芝居小屋です。



鉱山事務所

明治38年(1905)洋館の意匠をこらした、ルネッサンス風の華麗な鉱山事務所を、平成13年に「明治百年通り」へ移築、建設当時の姿を復原。玄関ホール中央には、3階まで突き抜ける「らせん階段」がある。建設当時から明治を代表する建物として注目を集めました。



あきたエコタウンセンター

秋田県北部で行われている様々なリサイクルの取組を紹介する施設です。パネルや模型を通して、リサイクルの意義を学ぶことができます。

交通のご案内

史跡尾去沢鉱山までの所要時間

(お車で)

- 鹿角八幡平ICから 約15分
- 大館能代空港から 約1時間
- 十和田湖から 約1時間15分
- 八幡平から 約1時間
- 田沢湖から 約1時間30分
- 盛岡から 約1時間15分
- 青森から 約1時間10分
- 八戸から 約1時間15分



体験のご案内



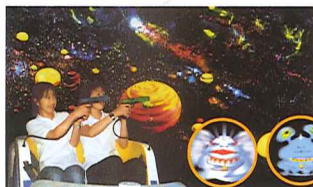
■砂金採り

砂金採り 30分 700円・500円(中学生以下)
天然石掘り 20分 500円



■天然石掘り

シューティングアドベンチャー



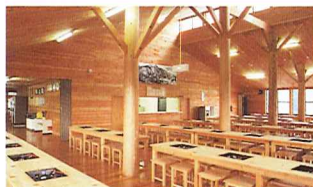
レーザーガン搭載!



フルトン号に乗り
エイリアンをやっつけろ!

大人1,000円 中・高生800円 小学生600円 幼児(3歳以上)300円
※平日、冬期間休業(大型連休・夏休み期間等除く)

施設のご案内



■レストハウス250席(団体受入可)
車イス専用通路あり、定休日あり



■おみやげ館(各種鉱石コーナー)

営業時間

4/1~10/31
AM9:00~PM5:00(夏期)
11/1~3/31
AM9:00~PM3:30(冬期)

石切沢通洞坑 観覧料

区分	個人	団体(10名様以上)
大人	1,000円	900円
シニア・中高生	800円	720円
小学生	600円	540円

※冬期間は、石切沢通洞坑、おみやげ館、鉱山歴史館のみご利用出来ます。

※小学生未満は無料となります。



近代化産業遺産認定

史跡 尾去沢鉱山

〒018-5202 秋田県鹿角市尾去沢字獅子沢13番地5

TEL 0186-22-0123
FAX 0186-23-3217

イベント情報はホームページか携帯QRコードでご確認下さい。

<http://www.osarizawa.jp>

史跡 近代化産業遺産認定

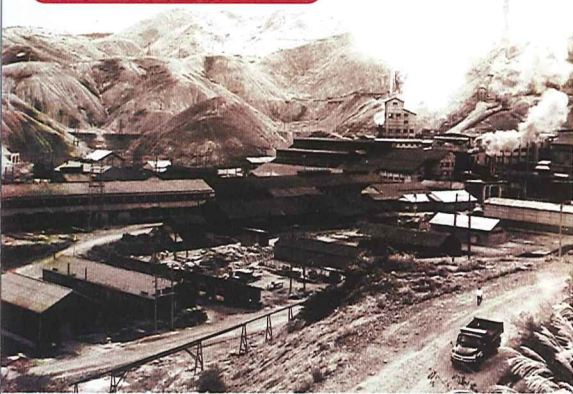
尾去沢鉱山



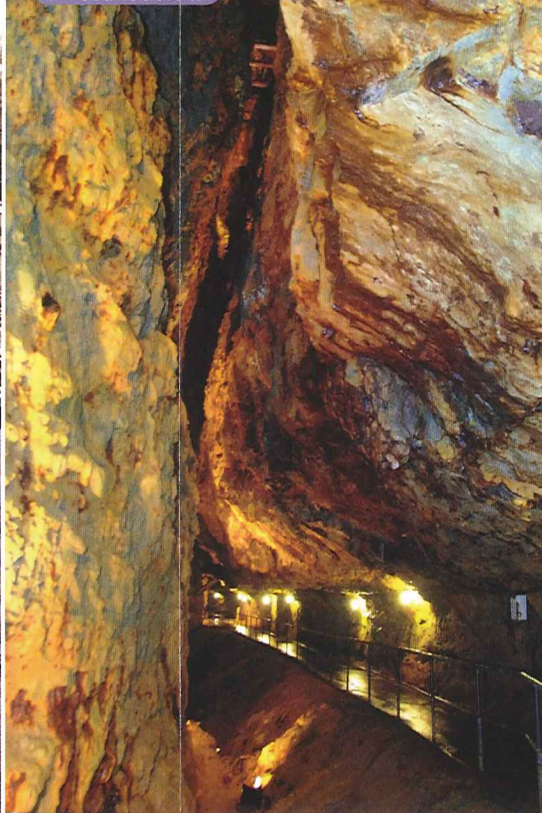
石切沢通洞坑



往時の鉱山全景 (昭和39年)



大規模採掘跡



金山奉行所 (江戸時代)



バッテリー電車 (昭和時代)



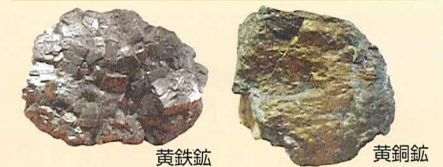
からめ場 (江戸時代)



秋田県の主力産業であった鉱山

「秋田県の北部(北鹿地域)は、常に日本国内における各種金属の主要供給源となっておりました。特に銅の生産量は、50%以上を占めていたときもあり、秋田県の面積が全国の3%、そのうち北鹿地域の面積(600km²)が0.16%に過ぎないことを考慮すれば、秋田県(特に北鹿地域)が金属鉱物資源に恵まれ、国内産業に大きく貢献したことがわかります。

尾去沢で採掘された鉱石



尾去沢の鉱脈のできかた

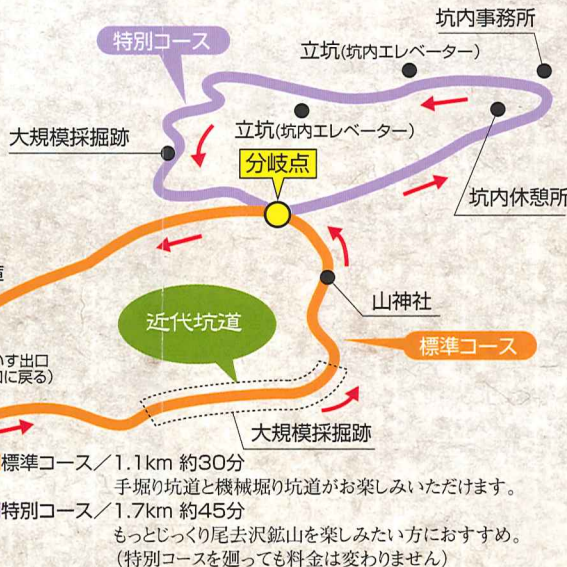
マグマから噴出した水蒸気は有用鉱物を多く含んでおります。水蒸気は地下の岩石の割れ目などを通して移動していきます。水蒸気は周囲の岩石と反応したり、冷却されて液体となり地下の亀裂に沿って固まりました。これらを鉱脈と呼んでいます。この鉱脈を浅熱水鉱床といい日本の主要な金属鉱床がこの型の鉱床です。代表的例として、尾去沢鉱山があります。

日本最大規模の銅鉱脈群採掘跡が残る鉱山



鉱山ガイドと歩こう!

10名様以上事前予約の団体様には、ご希望により鉱山ガイドがご案内を致します。お気軽にお問い合わせ下さい。



尾去沢鉱山の800kmに及ぶ坑道のうち、1.7kmを整備した観光坑道では、壁面に露出した約900万年前の地殻の断層や、再現された採掘の作業風景をご覧ください。なりながら産業発展の歴史にふれることができます。

尾去沢鉱山の歴史

- 和銅元年(708) 尾去沢鉱山が発見される。(伝説)
- 平安後期(1100~) 奥州藤原氏が平泉の黄金文化を築く。中尊寺金色堂の建設に産金が使われたと言われる。
- 天正18年(1590) 盛岡南部氏の所領となる。
- 明治22年(1889) 岩崎家の稼業となる。
- 明治26年(1893) 三菱合資会社の経営となる。
- 明治29年(1896) 水力発電所の建設に伴い全山電化となる。
- 昭和18年(1943) 月産10万トン、従業員4,486名と最高を記録。
- 昭和53年(1978) 銅価格の低迷と鉱量の枯渇により閉山。
- 昭和57年(1982) 観光坑道として生まれ変わり、今日に至る。



鹿角市鉱山歴史館



尾去沢鉱山で採掘された貴重な鉱石類、江戸時代の資料、坑道の模型などが展示されております。